

ジャンボン

お葬式そうしきのことです。大切な人が亡なくなったときに、人々は、その人のことを思ったり、様々なことを願ったりします。ジャンボンの儀式ぎしきには、亡くなった人への敬愛けいあいを込め、多くの地域ちいきの人々が関わって行われてきました。



のべおく
野辺送り

(昭和 47 年宇都宮市
柏村祐司氏撮影 県立博物館提供)

～とちぎしん人の想い～

昔は、地域の人たちみんなで役割を持って、協力してジャンボンを行っていました。とても遠くまでジャンボンツカイをして、お疲れ様でしたと感謝されたことを覚えています。

大切な人が亡くなることは、とても悲しいことまる。地域に住んでいる人みんなが、亡くなった人のことを思っていたまるね。



〈ジャンボンの説明〉

ジャンボンという呼び方は、ミョウハチ（シンバルのような形の仏教で用いる楽器）の音が「ジャランボーン」と聞こえるからといわれています。

地域によっては、ジャンポー、ジャーポー、ジャアボ、ジャンボなど色々な呼び方があります。

ジャンボンは、地域の人がお葬式そうしきや葬列れつに参加するだけではなく、墓はかの穴を掘ることや、棺ひつぎを運ぶこと、死者の服装を作ること、食事の準備をすることなどが含まれ、地域全体で、死者の霊魂れいこんを送り出す風習でした。

親戚しんせきなどに亡くなったことを知らせに行く人を、ジャンボンツカイといいます。ジャンボンツカイは、確実に伝えることができるように二人一組で出かけました。